

松戸市で見つかるカエル

澤田 勝生

もうすっかり^{はる}春になり、生き物^{い もの}たちが冬越^{ふゆ こ}しを終^おえてそこかしこで見られるようになりました。つい先日^{せんじつ えんない}園内^{さんらん}でアカガエルが産卵^おしたと思ったら、今^{いま}ではもう市内^{し ない}のヒキガエルが産卵^{さんらん}を終^おえ、じきにオタマジャクシも見られます。これから夏^{なつ}にかけて松戸^{まつど}のカエルたちは次々^{つぎつぎ}と産卵^{さんらん}シーズンに入^{はい}っていきます。カエルを^め目にする^めことも増^ふえるでしょうし、せっかくですから松戸市^{まつとし}で見られるカエル^みたちを紹^{しょう}介^{かい}していきたいと思^{おも}います。

＜アズマヒキガエル＞

松戸市^{まつとし}で^め目^めにすることの多い^{おお}大きなカエル^{おお}です。乾燥^{かんそう}に強^{つよ}く水^{みず}から離^{はな}れて生活^{せいかつ}します。なので庭^{にわ}などの人^{ひと}のいるところにも来^きたりします。だいたい林^{ばやし}



や畑^{はたけ}の辺^{あた}りにいて、昼間^{ひる ま}は石^{いし}や木^きの下^{した}でじっとして夜^{よる}にご飯^{はん}を探^{さが}します。松戸^{まつど}では春先^{はるさき}にオス^とがメス^あを取り合^あって大げんか^{おお}する「蛙合戦^{かわずかっせん}」が見^みられます。蛙合戦^{かわずかっせん}は合戦^{かっせん}というくらいです。すからとても激^{はげ}しく、死^しぬカエルもよくいます。通^{とお}りがかったウシガエル^{はげ}が巻^まき込^こまれて死^しんだりするくらいには激^{はげ}しいです。

<ニホンアマガエル>

こちらも多く目にするこ
ぶりなカエルです。乾燥に
強く木や壁を上れるので
庭などでも見られ人目に
つくことが多いです。田ん



ぼ近くのサトイモの葉っぱでよく見かけます。植物の上にいる
のが好きなカエルなので野菜につく虫を食べてくれることも多
いです。春の終わってから夏の初め辺りで産卵して一月くらい
でカエルになります。体の色を変えるのが得意なカエルで、周
りの色に似せることで敵から隠れます。緑と灰色の子をよく
見ますが、たまに一部の色を持たずに生まれて青色や黄色に
しかねない子もいます。

<トウキョウダルマガエル>

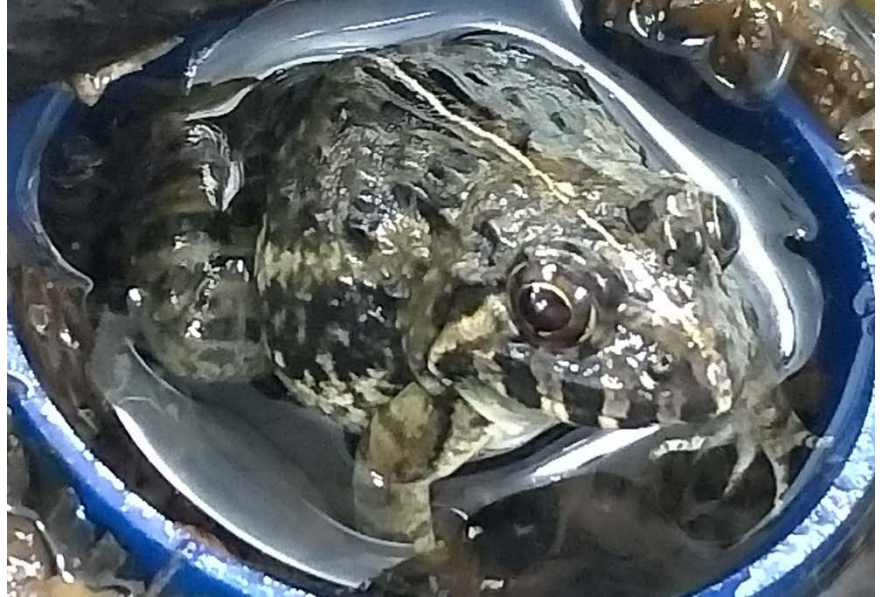
トノサマガエルと先祖
が同じなので見た目が
よく似ている中くらいの
カエルです。足が短くて
後ろ足が耳まで届か
ない方がダルマガエルで



す。ため池が周りにある田んぼ近くで見られます。乾燥に弱いので水から離れることができず、探しに行かなければ見ることはあまりありません。緑と茶色に黒いブチといった柄をしていますが、写真のように緑は少なく茶色い体をした子が多いです。今の田んぼは昔と違って、乾田といって冬に水がありません。乾燥に弱いダルマガエルは田んぼで冬を越せません。おまけに田んぼ周りの用水路がコンクリで覆われていると、落ちたら上がれずおぼれて死んでしまいます。そのため田んぼに生活を頼っていたダルマガエルは数が減ってしまいました。ウシガエルがいると食べられていなくなってしまうので園内では見られませんが、松戸のため池や田んぼで夏先辺りに産卵をしているのが見られます。

<ヌマガエル>

な まえ とお みず べ
名前の通り水辺に
いる 小 ぶりなカエル
で、ダルマガエルと同
じく 田 んぼの 周りに
います。元は西日本に



しかいないカエルですが、30年くらい前から関東に移ってきて
しまいました。寒さには弱いですが暑さに強く、お風呂のお湯
くらい熱くなった田んぼの水の中でもオタマジャクシが生きて
いたりするほど強いです。他の田んぼにいるカエルと同じく春
から夏の頭にかけて産卵します。卵は米粒より小さい上に
バラバラに散らばるのですごく見つけるのが難しいです。昔は
ツチガエルという見た目のそっくりなカエルが松戸にもいました
が今ではいなくなっていました。ウシガエルがいると食べられ
ていなくなってしまうので、園内では見られません。

<ウシガエル>

にほんさいだい えんない せん
日本最大のカエルで、園内では千
だぼりいけ かれ うし な
駄堀池で彼らの牛のような鳴き
こえ き ひと と こ
声をよく聞きます。人を飛び越え
るほどジャンプできて およ みず
潜るのも上手いです。口も大きく、

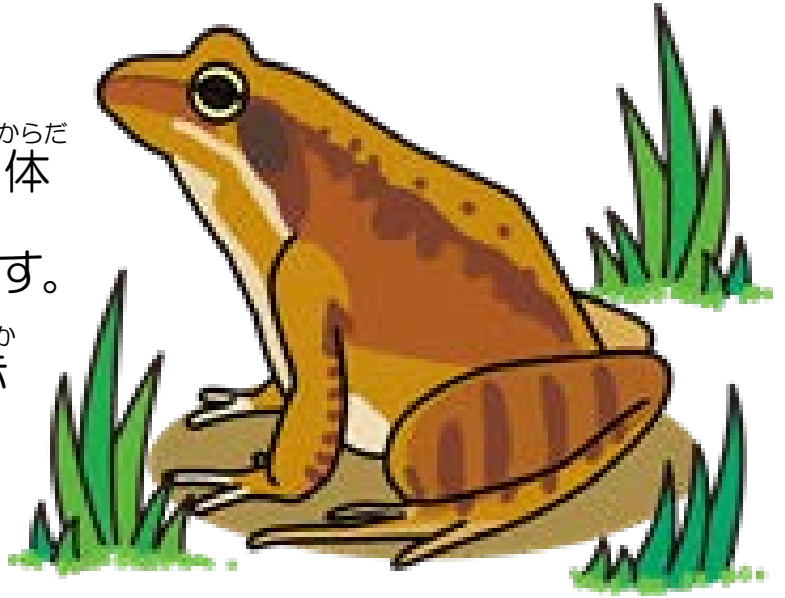


うご たい
動くものならネズミもトカゲも鳥でも何でも食べようとする大
しょくかん みず べ この みずくさ しげ かく せいかつ た
食漢で、水辺を好み水草や茂みに隠れて生活します。田ん
ぼに**いる**ようなカエルは **生活する場所**が **重なる**のでよくウシガエ
ルに **食**べられます。園内**にいる**アカガエルやヒキガエルは **生活場**
所が **重**ならないので **悪影響**は **小**さいですが、それでも **生活場**
所が **近**いので **食**べられているアカガエルがいることでしょう。

ウシガエルは特定外来生物に指定されており、生きたまま運んだり
飼ったりすると法律で罰せられ、逃がしたことで駆除が必要な際は逃
がした人が費用を一部ないし全額負担することになります。捕まえた
方は持ち帰らない・よそに逃がさないよう注意してください。

<ニホンアカガエル>

な まえ とお あかちゃいろ からだ
名前の通り赤茶色の体
をした中^{ちゅう} くらいのカエルです。
モミジのような^{あざ} 鮮やかな^{あか} 赤
^{いろ}色をしていることもありま
す。ふだんは^{そう き ばやし} 雑木林^じの地



めん^{うえ} 面^{まわ}の上^{くさ}やその周^{せいかつ}りの草^{なか ま}むらで生活^なします。アカガエルの仲^ま間
は冬^{ふゆ}に産^{さんらん}卵^{おお}するのが大^{とくちょう}きな特^{てんてき}徴^{てん}です。これは天^{てんてき}敵^なのヘビなん
かが冬^{とうみん}眠^{さんらん}しているので安^{あんぜん}全^{たまご}に卵^うが産^うめるからです。ニホンアカ
ガエルは山^{やま}に^す住^{ちが}むヤマアカガエルと違^{へい}って平^ち地^ちの田^たんぼの周^{まわ}
りの^{そうきばやし}雑^{さいきん}木^{そう}林^きに^{ばやし}い^たるカエルです。最^{さい}近^{きん}は^{そう}雑^き木^{ばやし}林^たが田^たんぼのそばに
ある^{さとやま}里^{かんきょう}山^への環^{ふゆ}境^{みず}が減^はり、おまけに冬^{ふゆ}に水^{みず}を張^はっている田^たん
ぼも全^{ぜんぜん}然^{ぜん}ない上^{うえ}に田^たんぼ自^じ体^{たい}が減^へっているので数^{かず}をとて^へも減
らしています。

ちばけん^{さいじゅうよう} 千葉県^ほの最^ご重^な要^ほ保^ご護^ご生^な物^な(何^ほも保^ご護^ごしなかつたら^{ちか} 近^{ぜつめつ}く絶^{ぜつめつ}滅^{めつ}す
る)に指^し定^{てい}されてお^{せい}り、21^{せい}世^き紀^きの森^{もり}と広^{ひろ}場^ばで大^{たい}切^{せつ}に保^ほ護^ごして
いるカエルです。

くれぐれも^も持^{かえ}ち帰^{かえ}ることのないようお^{ねが}願^{ねが}いします。

カエルを持ち帰らないで

園内でアカガエルを捕まえて持ち帰る方が時々いらっしゃいます。

21世紀の森と広場はそもそも動植物の持ち出し・持ち帰りが禁止されているのはもちろんですが、私が言いたいのはそれだけではありません。

ニホンアカガエルは飼育が難しいカエルです。アカガエルを飼う場合は雑木林の地面に近い環境を用意する必要がありますが、それがどのような環境か想像し用意できますか。環境が合わなければ弱って死にますし、連れてきたばかりの頃は大きなストレスがかかり、人におびえて餌も食べてくれません。カエル自体が、生き物の飼育に慣れた人でないと難しい生き物なのです。カエルは生きた虫を食べますが、冬になると外で虫は捕まえられませんし、冬眠も慣れた人でも死なせることのある難しいものです。カエルを飼うには餌の虫も飼う必要がありますが、同じ虫ばかりだと栄養の偏りで病気になります。またいつも飼育容器をキレイに掃除しないとこれも病気になります。そして寿命の来る10年近く世話を続けなければいけません。アカガエルの命のためにもどうか園内のカエルを持ち帰らないで下さい。

作成：2021年3月 21世紀の森と広場 パークセンター